大麦情報 No.1

えちご中越農業協同組合
電話番号（0258）41－2887

令和　8年　9月　24日

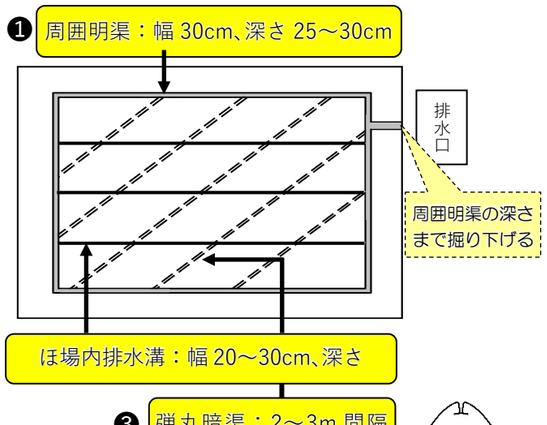
大麦の品質・収量の安定確保には、“越冬前の生育量の確保”と“越冬後の適切な追肥”が最も重要です。①「排水対策」、②「適正施肥」、③「適期播種」、④「秋期追肥」の徹底により、越冬前の生育量をしっかりと確保しましょう！

1．排水対策

円滑な播種作業および湿害を防止するため、水稲収穫後は早急に排水対策を万全にしましょう！

① 周囲明渠 ⇒ ほ場の周辺に幅 30 ㎝、深さ 25～30 ㎝の溝を掘り、排水口に接続します
② 排 水 溝 ⇒ ほ場内に 3～5ｍ間隔で深さ 20 ㎝程度、溝幅 20～30 ㎝の溝を切り、必ず周囲明渠に接続します
③ 弾丸暗渠 ⇒ 深さ 35～45 ㎝で 2～3ｍ間隔に施工します
※ 透水性の良いほ場では間隔を広げてください

※ 周囲明渠や排水溝は定期的に点検し、必要に応じて手直ししましょう。



2．土壌改良・基肥施肥

◇ 大麦は酸性に弱い作物のため、土壌 pH6.5 前後（弱酸性）となるよう酸度矯正資材を散布しましょう！
◇ 越冬前の生育量を確保するため、基肥は確実に施用しましょう！

（1）標準施肥量とｐＨ目標値

成分名	施肥成分量・ｐＨ目標値
窒　素	5.0～6.0 kg／10ａ
リン酸	8.0～10.0 kg／10ａ
カ　リ	3.0～4.0 kg／10ａ
ｐＨ	6.5 前後

（2）肥料使用量の目安

使用区分	資材名	使用量
土づくり	醗酵ケイフン 等	30～60 kg／10ａ
酸度矯正	マグクリーン	70～100 kg／10ａ
基肥	国産化成肥料（14-14-14）	40 kg／10ａ



3．種子消毒

黒穂病類・斑葉病は、生育中の防除法がありません。
必ず種子消毒（温湯浸法または薬剤消毒法のいずれか）による病害防除を徹底しましょう！

対象病害	消毒法	消毒の手順
裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、条斑病、斑葉病、雲形病	温湯浸法	初期の湯温　～加熱せず、ふたを少し開け自然に湯温を下げます～ ４２℃ ←（１０時間）→ ３０℃
	薬剤消毒（湿粉衣）	「ベンレートＴ水和剤 20」 種子粉衣：乾燥種子重量の 0.5％を湿粉衣します

※ 湿粉衣：乾燥種子 10 kgに対し水 200ｍ ℓ を加えることにより、薬剤の付着が良くなります。

4．播種作業

越冬前の生育量をしっかり確保するために、“適期播種”に努めましょう！

（1）播種時期

9 月 25 日～10 月 10 日（中雪地帯：10 月 5 日まで、少雪地帯：10 月 10 日まで）

（2）土壌条件・播種様式と播種量の目安

土壌条件（排水条件・砕土率等）	播種様式別の適正播種量	
	全面表面播	ドリル播
良　好	8～10 kg／10ａ	7～8 kg／10ａ
不　良	10～12 kg／10ａ	不　適

播種時期		播種量
早い	→	少なめ
遅い	→	多め

※ 播種時期に応じて適正播種量の範囲内で播種量を調整して下さい。

ほ場条件や播種時期、播種様式に合った適切な播種量として下さい！



（3）越冬前生育量の目安

地帯別	平年根雪日数	播種時期	越冬前の生育量
中雪地帯（三島地域）	60～90 日	9 月 25 日～10 月　5 日	葉数 7 葉以上
小雪地帯　（寺泊・和島地域・出雲崎）	60 日未満	9 月 25 日～10 月 10 日	葉数 5 葉以上

品質・収量の安定化には、
適期播種による越冬前の生育量確保が重要です！

5．雑草防除

ドリル播と全面全層播では播種直後(雑草発生前まで)に除草剤散布による雑草防除を実施しましょう。

使用時期	薬剤名	使用量	希釈水量	備　考
播種直後（雑草生育前）	クリアターン乳剤	500～700ｍ ℓ /10ａ	70～100 ℓ	表面播種では使用しない
	ゴーゴーサン細粒剤Ｆ	5～6ｋｇ/10ａ	－	
麦１葉期～	ハーモニーDF	5～10ｇ/10ａ	50～100 ℓ	表面播種使用可

【ドリル播種】覆土深が 2～3ｃｍであることを確認のうえ、除草剤を散布して下さい。

【表面播種】大麦（は種後～節間伸長前）と雑草の生育状況を考慮したうえで、ハーモニーDF による雑草防除を実施して下さい。

6．秋期追肥

❶「苗立数が 150 本/㎡を下回っているとき」、❷「早播・厚播・湿害等により葉の黄化が見られたとき」は、遅くとも 11 月中旬までに追肥を実施しましょう。

施肥時期	生育の状況	窒素成分量	備　考
播種 2 週間後	苗立数不足（150 本／㎡以下）	2 kg／10ａ	排水対策後に追肥を実施 ○尿素 46%、硫安、塩化加里 60.0%、穂肥 500 号等
遅くとも 11 月中旬まで	黄化現象（早播・厚播・湿害等）	1～2 kg／10ａ	

※ 追肥量が多すぎると耐雪性が低下するので注意して下さい。

～～営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ～～